

第 2 学年 英語科学習指導案

日 時： 平成 17 年 10 月 5 日（木）5 校時
学 級： 2 年 5 組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名

1 主題名 New Horizon English Course 2 Unit 5 A Park or a Parking Area?

2 主題設定の理由

(1) 生徒観

英語学習における学習態度は全体的に落ち着いているが、集中力にムラがある。発言は一部の生徒に偏っていたが、本文の暗唱の発表などでは 9 割方の生徒が発表をすることができるようになってきた。しかし、寡黙に近い生徒、積極的に他と関わりあえない生徒もいることから、ペア学習やコミュニケーション活動の際、支援を行う必要がある。また、全体的に発表の際の声の大きさや発表を聞く態度が定着していないため、他の活動場面においても指導が必要である。事前アンケート調査の結果によると、英語学習全体に対しては、8 割以上の生徒が、興味・関心を持っており、英語を日常生活の身近なものとしてもっとわかるようになりたいと考えているが、学力差も大きく、1 年時の学習内容も定着していないところがある。特に「書くこと」の定着を図るため、現在は家庭学習プリントで 1 年時からの既習事項の復習をするに取り組んでいる。

「話すこと」に関しては、Yes, No などで答える単純な会話にはほとんどの生徒が対応することができるが、WH や How を使った質問への答え方を苦手としている生徒が多い。また、eye contact や相手の答えに尋ね返すこと、相づちを打つことなど会話のマナーの徹底や、さらに踏み込んだ会話をするまでは至っておらず、今後の指導の課題である。

(2) 教材観

本題材では、言語材料として、接続詞(if, that, when, because)を用いて表現する学習が中心となる。これらの接続詞を学習することによって長い英文になり、より深まった表現が可能になる。そして、このことから、コミュニケーション能力がより高まることが期待できる。内容としては駐輪場建設をめぐる話題が取り上げられており、この話題は身近な「社会問題」である。本題材は、このような「社会問題」について考える機会にするとともに、この種の問題についての賛否の論点を整理したり、課題を解決しようとしたりする態度を養っていくのには適した題材でもある。

(3) 指導観

この題材では、コミュニケーション活動を通して、さまざまな接続詞を用いることで自分の考えや感じたことをより豊かに表現できることを感じ取らせたい。そのために、接続詞を使っのパターン練習の時間を十分に確保し、自信を持って表現できるようにしていきたい。また、生徒の能動的学習態度と実践的コミュニケーション能力を育成するため、ペアやグループでの活動を多く取り入れ、現実に近い場面を設定し、英語でコミュニケーションができるようにしたい。それらの活動をする中で自分の意見や考えを英語で述べ、その理由を言うことができるようにしていきたい。Dialog の that 節を用いての意見を述べる表現から Reading for Communication における because 節を用いて理由を述べる表現を学習し、また、Book 3 の本格的な議論につなげたい。

3 単元目標

- (1) 言語活動に積極的に取り組み、工夫しながらコミュニケーションを続けようとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 接続詞(if, that, when, because)を用いて身のまわりのことや自分の考えなどを話したり、書いたりすることができる。
【表現】
- (3) 接続詞(if, that, when, because)を用いた文の意味内容を理解することができる。
【理解】
- (4) 接続詞(if, that, when, because)を用いた文の形・意味・用法を理解している。

【言語や文化に関する知識・理解】

(5) 「社会問題」に目を向け、その解決策について考えることができる。

【言語や文化に関する知識・理解】

4 指導計画

Starting Out	1 時間
Dialog	2 時間 (本時2/2)
Reading for Communication (when 節)	1 時間
Reading for Communication (because節)	2 時間
Listening Plus 5	1 時間
Speaking Plus 3	2 時間
Unit 5 のまとめ	1 時間

5 評価規準 別紙

6 本時について

(1) 主 題 Unit 5 Dialog

(2) 目 標・that 節を用いて自分の考えを書くことができる。

【書くこと：表現】

・that 節を用いてペアで会話ができる。

【話すこと：表現】

(3) 指導の構想

1 学期より、本文の暗唱、発表を中心にペア学習に取り組んできた。暗唱については苦手な生徒や、かなりの時間を要する生徒もいる。また、英語で発表することにまだ抵抗を感じている生徒、英語で表現することを楽しめない生徒がいるのが現実である。本時は Dialog の 2 時間目である。前時は接続詞 that の用法についてと本文の内容について学習した。本時は前時の学習内容を確認し、接続詞 that を使って自分の考えを英語で表現することを目的とする。身近なことについて自分の考えを表現し、それをペアで会話をする。自分の意見をはっきり言い、相手にも明確な応答を求める質問の仕方をここで身につけさせたい。できるだけ自分たちのこととして表現活動ができるよう支援し学習を展開したい。また、eye contact や感情表現などにも注意し発表できるように促したい。

(4) 具体の評価規準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手だて
関心意欲態度	積極的に自分の考えを英語で表現しようとしたり、意欲的に発表にも拳手して挑戦する。	自分の考えを進んで英語で表現しようとしている。	ペア練習中に声かけをして励ます。会話に自信をもって取り組めるように支援する。
表現	英語らしい音声で表情豊かに会話をする。	概ね英語らしい英語で会話をする。	発音やイントネーションに多少の難があっても大きな声で会話をさせる。
理解	他の発表内容を正しく理解できる。	他の発表内容を概ね理解できる。	発表の内容をおおまかに説明するなど、理解できるように支援する。
知識	接続詞 that の意味・用法を理解できる。	基本文の意味を理解できる。	接続詞 that の用法について再度指導する。